



2019-2020 主題

国際会長：Jennifer Jones	"Building today for a better tomorrow "
	"On the MOVE!!" [さぁ動こう!!]
アジア太平洋地域会長：田中 博之	"Action!" 「アクション！」
東日本区理事：山田 敏明	「勇気ある変革」 「みんなで力をあわせて1.2.3」
湘南・沖縄部長：森田 幸次郎	「ワイズを社会に広める基盤の 再構築をする」
クラブ会長：久保 勝昭	"良きつながりを持って"心ひとつに 「無理のない奉仕活動を」



ピンクシャツデー

横浜つるみワイズメンズクラブ会長 久保 勝昭

2020年2月14日(金)18:00より第8回つるみクラブ例会を鶴見中央地域ケアプラザ・ボランティアルームで実施した。この日は早くも定刻20分前にはほとんどの人が集まっていた。なにをするのかと見ていたら、会計の中村純子ワイズがおもむろにYMCAのロゴが入ったピンクのポロシャツを取り出し「皆さん今月はいじめ反対運動の月です、このシャツを着て例会をいたしましょう」と呼びかけた。この日は担当主事の島田さんがインフルエンザにかかり欠席されたので自分以外は全員女性でしたので、ピンクがとてもお似合いです。2007年カナダの学生運動2人から始まったいじめ反対運動です。ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャル」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に付けて登校。学校中がピンク色に染まり、「いじめ」が自然になくなったそうです。(YMCAのリーフレットより)。つるみクラブとしては、自分と担当主事以外は初めての試みでありピンクのシャツを着ることに、いじめ反対運動が日本人の感覚と、どの様に繋がるのか多少疑問であるが、少なくともいじめと向き合うきっかけにはなったと思う。しかし、ここ数年に渡ってピンクシャツデーにはピンク色の小物を身に付けてこの日を迎えるが、真剣にいじめと向き合った事はない。学校内でのいじめの問題をニュースで放映しているのは良く耳にする。そこでインターネットで調べてみた。小中学校、高校、特別支援学校における「いじめ」の認知発生件数は前年比91、235増の41、4378件で昭和60年度開始以来過去最多となった。とある特に小学校低学年が多い傾向にあると書かれていた。「冷やかしかからかい、悪口や脅かし、文句、嫌な事を言われる・(インターネットより)」が最も多く62、5%。「いじめ」発見のきっかけは「アンケート調査等の学校の取り組みより発見」とある。ここからはピンクシャツデーの月だけでなく年間を通してこの問題と向き合っていきたい。



第5回横浜YMCA

子ども支援（BAPY）基金のための
チャリティーゴルフ：2020年3月6日（金）



場所：戸塚カントリー倶楽部

横浜つるみワイズメンズクラブ会長 久保 勝昭

今年も待ちに待ったプログラム、チャリティーゴルフの時期がやってきました。実行委員会も3回ほど実施、詳細に渡って話し合いを重ね万全を期したつもりでありましたが、今年に入って広がった新型コロナウイルスの感染拡大防止によるイベントの自粛により、結果報告や表彰式が行われるパーティーを取りやめ、プレーのみ実施する大会となった。尚、参加人数も116名（4名キャンセル）と前の大会より増えチャリティーの額も推定89万ほどになり、参加者、スタッフには、感謝の一言である。また結果、商品は後日郵送することとなった。幸い、富士山がくっきり観える美しく、素晴らしい天気にも恵まれ気持ちのよい、楽しいプレーができたと思っています。



横浜YMCA子供支援（BAPY）基金は、YMCAの行うスポーツやキャンプなどさまざまな活動に、経済的な理由から参加することのできない子供たち（青少年）に対して、参加費用の一部または全部を基金より援助するプログラムです。18歳未満の非保護世帯、非課税世帯、児童養護、社会的養護で生活しているこどもが対象です。BAPYとは、Be a partner of the Youth の頭文字をとり、「子供たちのパートナーになろう」という意味が込められています。

～ 鶴見での活動報告～

先日、読売新聞の取材を受けました。「シングルスタイル」という特集で、50代の一人暮らしの老後の不安についての相談でした。老後のための準備といっても、漠然としており何を準備すればいいのかわかりません、はっきりとしないと思います。そこで進めたのがエンディングノートと呼ばれている、自分の考え方や、自分史の整理です。自分が「何をきて」「何を残して」「何をしたいか」を書いてみると考えが整理できて準備ができるとおもいます。人生の中で、各年代のステージであったエピソードを思いだしながら、「大切にしてきた」ことを書いてみてください。そのことをふまえて、「介護が必要になったとき」「医療・終末期について」「相続・遺言について」「葬式・お墓について」「お願いごと」等を考えてみると、何をしたいかわかると思います。

エンディングノートは何のです。50代からそのことありますが、若い時分から書いてから書いてみるでもいいと思います。一度チャレンジしてみてください。



度でも書き直しができるものを意識する方は少ないと思います。60代、70代になってもいいと思います。一度チャレンジ

島田所長(左)に質問する名取さん(横浜市で)―読売新聞社：松本剛撮影

ワイズメンズクラブ湘南・沖縄部

ワイズメンズクラブ湘南・沖縄部は、横浜YMCAを支え協働する団体として活動しています。湘南沖縄部では、神奈川県内と沖縄県にあるワイズメンズクラブが交流しながら活動しています。現在9クラブが活動しており、それぞれの地域のYMCAとともに、地域の課題に協働し奉仕をしています。また、2019年度に誕生した横浜つるみワイズメンズクラブは、京浜地域における新たなワイズ活動の芽生えとなり、YMCAと協働することで、より一層地域での活動が深まっています。

鶴見中央YMCA 島田 徹

<横浜つるみワイズメンズクラブ第8回例会>

日時：2020年2月14日(金) 18:00～20:00
場所：横浜市鶴見中央地域ケアプラザボランティアルーム

出席者：久保、久米、駒井、新改、中村、松井、吉本、渡邊

【プログラム】 司会進行 渡邊 光枝

◎開会点鐘・ワイズソング・ワイズの信条

開会挨拶：久保勝昭

- 【報告事項】
- 1/11(土)14:00～18:00 在京ワイズ合同新年会・東京Y
 - 1/16(木)13:00～15:00 鶴見区社会福祉協議会・会議
 - 1/16(木)16:00～18:00 エクステンション委員会・中央YMCA
 - 1/18(土)14:00～16:00 役員会(会長のみ)中央YMCA
 - 1/18(土)18:00～20:00 横浜YMCA・ワイズメンズクラブ合同新年会

- 【審議事項】
- ① 総会：(2/3以上の出席により成立)会長が自動的に務める
 - 半期：会計報告・監査
 - 例会開始・例会時間の変更
 - ② 鶴見区社会福祉協議会プログラム
 - 2/22(土) 鶴見あいねっと推進フォーラム(中止)
 - 3/28(土)「鶴見区ふれあい助成金」説明会

- 【連絡事項】
- ★ 2/1(土) 13:00～16:30 東京YMCA (終了後懇親会) 2019～2020年度東日本区CHANGE! 2022 シンポジウム
 - ★ 2/20(木) ボランティア・市民活動団体分科会
 - ★ 3/15(日) 歌声サロン in 町田 町田スマイリングリングクラブ(中止)
 - ★ 4/10(金) 18:00～20:00 つるみクラブ例会

【ハッピーバースデー】 ナン

◎閉会点鐘：久保勝昭

2月在籍者数		2月出席者数		出席率
メンバー	9名	メンバー	8名	89%
計	9名	合計	8名	89%

<役員会>

2/24(月) 10:00～13:30

3/ 9(月) 13:00～17:00

出席者：久保、久米、中村

議題

- 例会プログラム
- ブリテン内容の検討
- その他

耳より情報

イライラした時の対処方法（診療内科の先生にお聞きしました。）

どうしてイライラが起きるのでしょうか？

- 自分の思い通りにならない時
- 不安、焦り、がある時

体内でどういう状態になっているのか。

- 例 ; 針の糸通しの場合
通常の血圧 130 が一気に最高 200 になる。
血小板が通常丸い形だが、イライラした時は、角でとげとげした形に変化して血栓が出来、度重なると脳梗塞を起こす。

- 対策 ; 歩く事で脳が活性化される。
自然に触れる。
夫の言動に対しては、自分が、接し方を変える。感謝の気持ちを思い起こす。
子供のしつけは、～ではならぬをやめ、どうする？と聞く。丁寧な言葉で、お願いする。
マナー違反に対しては、人の振り見て我が振り直せ。
目を閉じて、6 秒間呼吸を整える。

(久米 康子 記)

社会福祉協議会 ボランティア・市民活動分科会

日 時：令和 2 年 2 月 20 日（木）13：30～15：30

場 所：鶴見区福祉保健活動拠点 多目的研修室

1部 団体発表「助け合いエプロン」（暮らしの助け合い活動）

24 時間 365 日活動 メンバー 27 名で 40 カ所担当（29 歳～78 歳まで、ヘルパー資格 22 名）
「朝、昼、夜」をヘルパーさんの得意分野に応じて訪問している。
“やさしく・ていねいに・安全に” をモットーに活動している。

2部 3 グループに分かれ話し合い発表する。

テーマ A 「令和元年度ボランティア・市民活動団体分科会について」

- ・今のままで良いのでは？
- ・出席団体が少ない、出る人が限られている、これで良いのか？
- ・出席しないところには、助成金を出さない方が良い。
- ・代表だけが出るのではなく、他の人が順番に出席するようにグループで話し合う。
- ・分科会の内容に問題がある、大きなテーマを考え、もっと良くなる会にしたら良いと思う。
- ・年に 1 回遊びを取り入れ、みんなで楽しんで出来る分科会にしては。
- ・助成金をいただいているのだから、他団体の話を聞き有意義になっていることを伝えたい。
- ・参加しても何も無い？というのが不参加理由になるのではないか。

テーマ B 「ボランティア活動における人材確保について」

- ・チラシ等を作り PR をする。声かけも大事。
- ・アイネットを利用して募集しては。
- ・広報鶴見区版に載せていただけないのか？
- ・分科会のなかで横のつながりができれば良いのでは。
- ・グループの高齢者が頑張っている、若い人たちは共働きや子育てなどで無理。
- ・若い人たちが少なくこのまま消えてしまうのでは？という悩みがある。
- ・自分たちで講座を開いて勉強の場を作らなければいけないのでは？
(活動をしながらの活動は無理との意見がでた。)

※ 各グループの発表で終了になり、次回 3/19 までにどうしたら良いか纏めてくることになった。(中村 純子 記)